

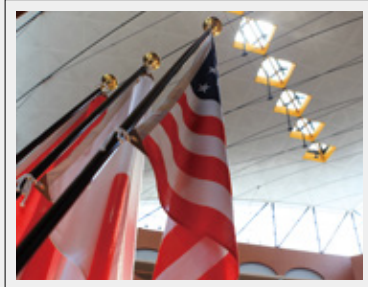


HOT! NEWS

① 名古屋国際中学校・高等学校
入学式

元アメリカ合衆国駐箭特命全権大使
加藤良三氏の登壇決定

名古屋国際では国際教育の一環として、世界を舞台に活躍され豊富な経験や体験を有する方をゲストスピーカーとしてお招きして講演いただく取り組みを行っています。このたび、2017年4月3日に挙行予定の名古屋国際中学校・高等学校入学式のゲストスピーカーとして、現在、三菱商事社外取締役であられる加藤良三氏をお迎えすることが決定しましたのでお知らせいたします。



加藤良三氏は1965年に東京大学法学部を卒業後、外務省に入省され、イエール・ロースクールで研修・卒業(修士)、アジア局長、総合外交政策局長、外務審議官を経て2001年にアメリカ合衆国駐箭特命全権大使に任命されました。駐米大使としては戦後最長となる6年半にわたる任期を務め上げ、日米関係の発展にご尽力されました。日米関係においてきわめて功績の大きい方でありアメリカで最も信頼された駐米大使と言われています。2008年から2013年までプロ野球コミッショナーを務められ、現在は三菱商事社外取締役でいらっしゃいます。

経験に裏付けられた貴重なお話を聞く機会であり、国際社会のまさに「現在」を知るまたのない学習の場となりますのでぜひご参加ください。

② SGH甲子園の本戦に出場！！

全国スーパーグローバルハイスクール
課題研究発表会2017

2017年3月19日、全国のスーパーグローバルハイスクール指定校、SGHアソシエイトから84校が一同に会して、課題研究の成果を競い合う日本最大規模の課題研究発表イベントが関西学院大学にて開催されました。これは大阪大学、大阪教育大学、関西学院大学が主催する平成28年度文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業の取り組みの一環でもあります。本校からは高校生11名がエントリーし、プレゼンテーション(口頭発表)に1チーム、ポスター発表に1チームの出場が認められました。当日の引率教員の報告によると、SGH甲子園におけるプレゼンテーションの評価は、審査員4名によるものであり、大学での研究の手法を高校生で実践させることを意識していると



考えられます。よって、高い評価を得るためには、①高校生の身近なところで研究の動機を持つ、②文献などを多用・現地調査(必要に応じて)、③論を固める、④高校生なりの解決策や行動案を示す、の3段階のステップが求められます。

今回の本戦出場の経験を生かして、来年度開催のSGH甲子園2018での高い評価を目指して、SGHアソシエイト活動を推進していきます。

THE FRONTIER TIMES
Report

国際教育プロジェクト合同報告会開催

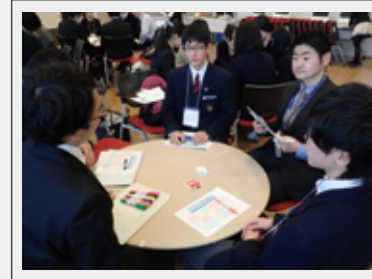
3 Global Actions on the Air!

東海地区を中心に全国から教育関係者が参加

2017年3月15日、名古屋国際中学校・高等学校が先駆けて実施してきた3つのグローバルアクションを統合した新しい国際教育の合同報告会を開催し、東海地区を中心に全国の大学や企業から多くの方々が参加されました。

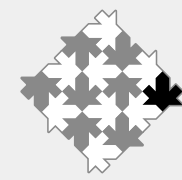
名古屋国際中学校・高等学校の教育理念と国際バカロレア機構が提唱する教育哲学には共通する部分が多く親和性が高いことから、本校は2014年12月に国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校となりました。また、2015年4月に文部科学省から、スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト校に指定されました。スーパーグローバルハイスクールは、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決能力等の国際的素養を身につけ、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成することを目的とした文部科学省の事業です。

さらに本校は、2016年9月に文部科学省委託の日本/ユネスコパートナーシップ事業であるESD重点校形成事業サステナブルスクールに認定されました。近年、学びのスタイルが多様化する中でESD(持続可能な開発の



ための教育)も着実に日本の教育現場に浸透しつつあります。この認定は、よりESDの実践力を高め、教育を通じて持続可能な未来をつくることを目指す学校に与えられます。これらの本校の3つの国際教育を具現化するグローバルアクションを、国際社会で活躍できる未来の国際人の育成するための国際教育プロジェクトとして掲げています。

報告会の第一部の基調講演では、「教育が導く社会の担い手 ～2030年を指標として～」をテーマに岡本 彩氏(文部科学省国際統括官付ユネスコ振興推進係長)を迎えました。講演の後半では参加者全員によるグループワークの時間を取り入れ、それぞれのグループ内のバックグラウンドの異なる参加者間でコミュニケーションを高めたディスカッションを実施することができました。岡本氏からは「名古屋国際の3つのグローバルアクションの取り組みが目指す人材像はお互いに重なる部分が多く、1つの学校で同時に実施することにより相乗効果が生まれ、国際教育の内容を深めることができる」とのコメントをいただきました。今回の報告会で得られた貴重な知見と学外評価を次年度の改善計画に取り入れ、先駆的で魅力ある国際教育の開発につなげていきます。



THE FRONTIER TIMES

【フロンティア・タイムズ】



▲2017年3月15日に開催された「名古屋国際中学校・高等学校 国際教育プロジェクト合同報告会」のグループディスカッションの様子 本校多目的教室にて

[Global Mindedness]

On March 15th 2017, NIHS opened its doors to host a workshop where some of the distinctiveness of NIHS' curriculum was showcased to visitors and educators. The three main topics of the workshop centered around the (1) IBDP, (2) the Super Global High School project, and (3) the Education for Sustainable Development (ESD) at Nagoya Kokusai. As a UNESCO affiliated school, NIHS students have been advocating fair-trade, especially in the context of farming in developing countries. As a SGH Associate, NIHS has been instilling in its students the values of sustainable economic growth, and the skills needed for a dynamic global leadership.

Lastly, a couple of IBDP classes were showcased to visitors. Since international-mindedness is one of the main values promoted by IB, the IBDP curriculum fits in quite well with the goals advanced by the SGH schools, as well as the values advocated by UNESCO. The Japanese A teacher led group discussions with DP1 students on the uses of Japanese language in advertisements and slogans. He was followed by the English A teacher, who used the opportunity to discuss the similarities and differences of George Orwell's

Animal Farm and *1984*. Both books dealt with the manipulation of thought through the use of language, and certain contemporary political examples were used in the discussion as well. Finally, the Business and Economics teacher led a presentation on Business Management and the strategies used by companies to re-orient their profits, as well as some of the most typical business marketing strategies used by both American and Japanese companies.

After the class demonstrations, a short Q&A session ensued where students were asked about their future plans and college choices by members of the audience. Most of them were planning to attend Private Japanese Universities where they hope their IB Diploma will serve as a great advantage, especially in university applications. By challenging themselves in the IBDP, especially when classes are taught at the university level, IB students feel that they are ready for the challenges they will face in college.

Overall the workshop was a great opportunity for visitors and educators to become more familiarized with some of the features of NIHS' curriculum.



名古屋国際中学校・高等学校は、加速度を増すグローバル化の進展に対応できる教育環境の実践として、1990年代前半に設置者により考案され、2003年に設立された県内21校目の男女共学の私立中高一貫校です。名古屋国際は2014年12月に国際バカロレア機構(IBO)より国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)認定校として認可され、2015年4月よりIBDPを開始しており、また、2015年には文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校に指定され、欧米を始めとする海外の大学への合格者を輩出している国際教育の実践校です。

名古屋国際 中学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

発行 名古屋国際 中学校
NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
所在地 〒466-0841 名古屋市昭和区広路本町1-16
発行月 年間4回
制作 学校法人栗本学園
名古屋国際中学校・高等学校
学内広報チーム
デザイン cluch on cluch Co.,Ltd.
企画協力 株式会社 イーブレイン

TIMES 設置配布協力先
名古屋国際中学校・高等学校事務局前/名古屋商科大学 地域活性化研究センター/名古屋商科大学 中央情報センター/独立行政法人国際協力機構中部国際センター/認定NPO法人ICAN

広報紙「THE FRONTIER TIMES」に関するご意見・ご感想は ft@nihs.ed.jp までお送りください。本紙に掲載されている記事、画像など全てのコンテンツの著作権は名古屋国際中学校・高等学校に帰属します。私的利用以外の目的で複製・複製することはできません。
2017033115000